

平成20年度第2回特別講演概要

演 題 「色の感覚とその心理的效果 色は人の心に訴える」

講 師 元東京大学・日本大学教授 大山 正 氏

講師プロフィール

職歴

北海道大学文学部講師、同助教授、千葉大学文理学部助教授、同人文学部教授、東京大学文学部教授、日本大学文理学部教授、同学部長、同大学院非常勤講師を歴任。

表彰歴

日本心理学会国際賞特別賞受賞（2007年）

専門分野

色彩、形、空間の知覚の心理学、心理学研究法

主著

「色彩心理学入門」(中央公論社、1994年) 論文 約130編

講演内容の紹介

わたしたちは常に外界の色を感じ取っている。そのため、赤いリンゴや緑の草原が実在すると思っ込んでしまいがちである。

しかし、厳密に言うと、リンゴが反射する光や草原が反射する光が人の目に入ったのち、反射光に含まれる波長の違いによって赤や緑の感覚が引き起こされるのである。光の波長の違いが、異なる色の感覚をもたらすことを早くも17世紀に指摘したのは、物理学者のニュートンであった。

このように、色覚のメカニズムの研究が古くから人々の探究心を引きつけて来た一方で、色の認知や色彩が人の心に与える影響についても近年研究が進んでいる。例えば、赤は前方に進出して見え、青は後退して見える。赤は暖かく、にぎやかで目立つ色であり、青は涼しく、静かで目立たない色である。

このような色の持つ心理効果は、国を超え、時代を超えて共通している。色は人々の感情に訴え、人々の生活を豊かで楽しいものにすることができる。また、国際性のある便利な表示としても活用できる。